ONKYO

第3四半期 営業損益黒字化について

～平成28年3月期第3四半期決算ハイライト～

2016/2/12

オンキヨー株式会社

©2016 Onkyo Corporation All Rights Reserved

VALUE CREATION

当社の経営理念について

経営理念

“ VALUE CREATION ”

オンキヨーのコア技術

アンプ技術

スピーカー技術　ネットワーク技術

＋

Something Newへの挑戦

事業の効率化

新規市場開拓

販売拡大

長年培ったオーディオ技術やノウハウを基盤に、
他社協業を通じて企業価値を向上

©2016 Onkyo Corporation All Rights Reserved

当社の事業別戦略

AV事業

- パイオニアホームAV事業との統合シナジー効果により、開発費や製品コストを削減
- ハイレゾ音源配信と連携してブランドポジションを確立

OEM事業

- 車載スピーカー、ヘッドホン、電子楽器、PA機器等の新製品創出
- セルロースナノファイバー等の要素技術の開発強化

デジタルライフ事業

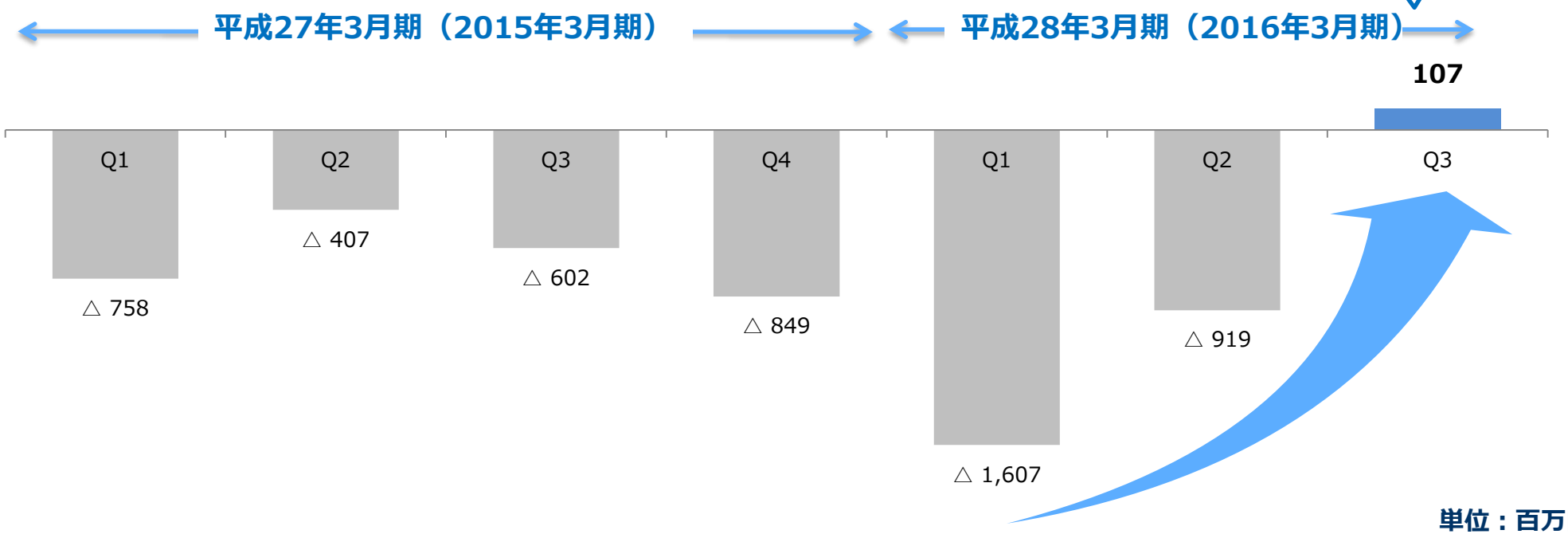
- マルチブランドで展開するヘッドホン関連事業売上の最大化
- デジタルオーディオプレーヤー（DAP）を中心としたエコシステムの構築

©2016 Onkyo Corporation All Rights Reserved

営業損益の四半期推移

パイオニアホームAV事業統合後の
体質改善が原価低減等に寄与し
7四半期ぶりの営業損益黒字化を実現

7四半期ぶり
黒字化実現

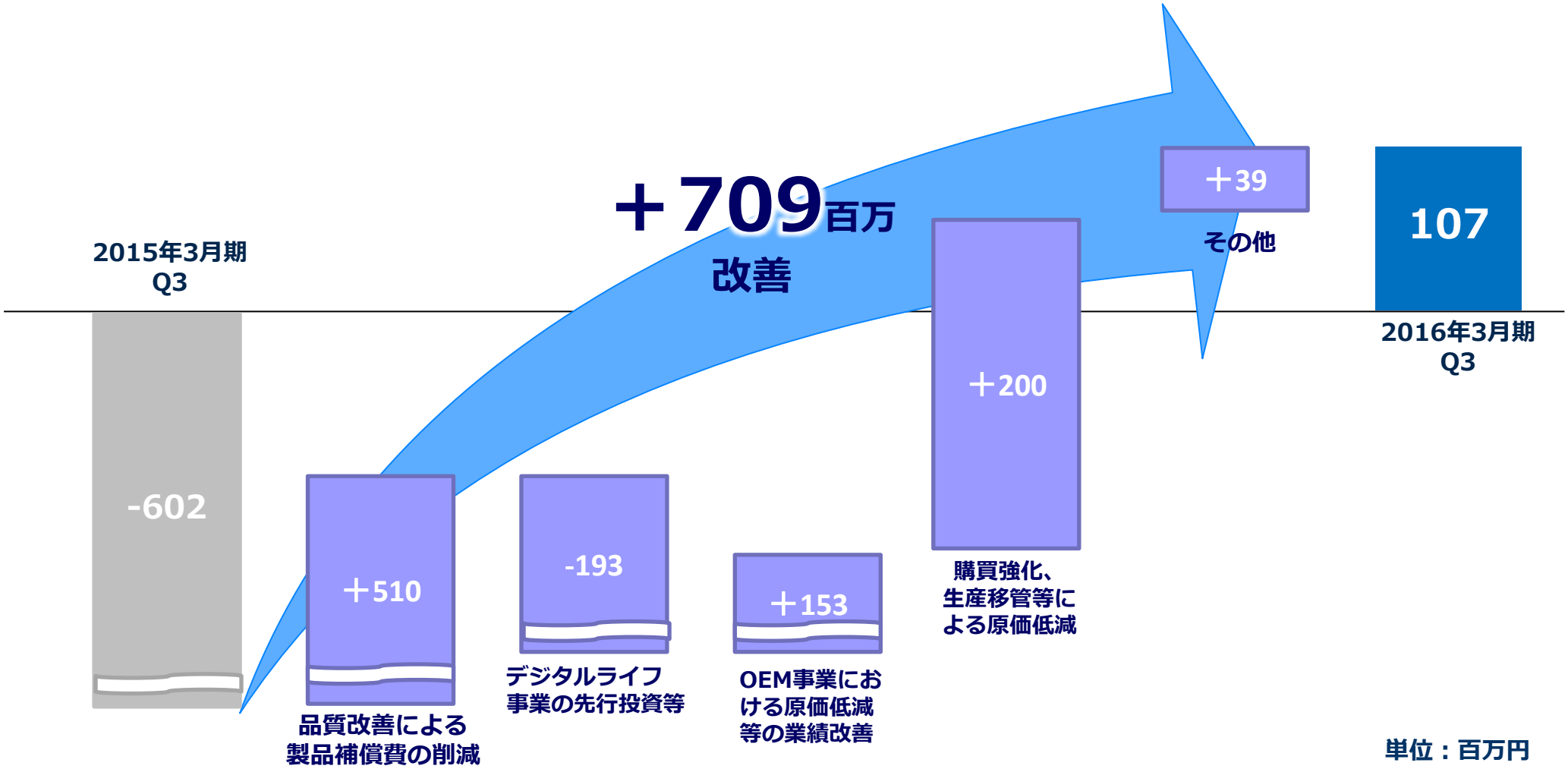


単位：百万円

©2016 Onkyo Corporation All Rights Reserved

2016年3月期第3四半期　営業利益の増益要因

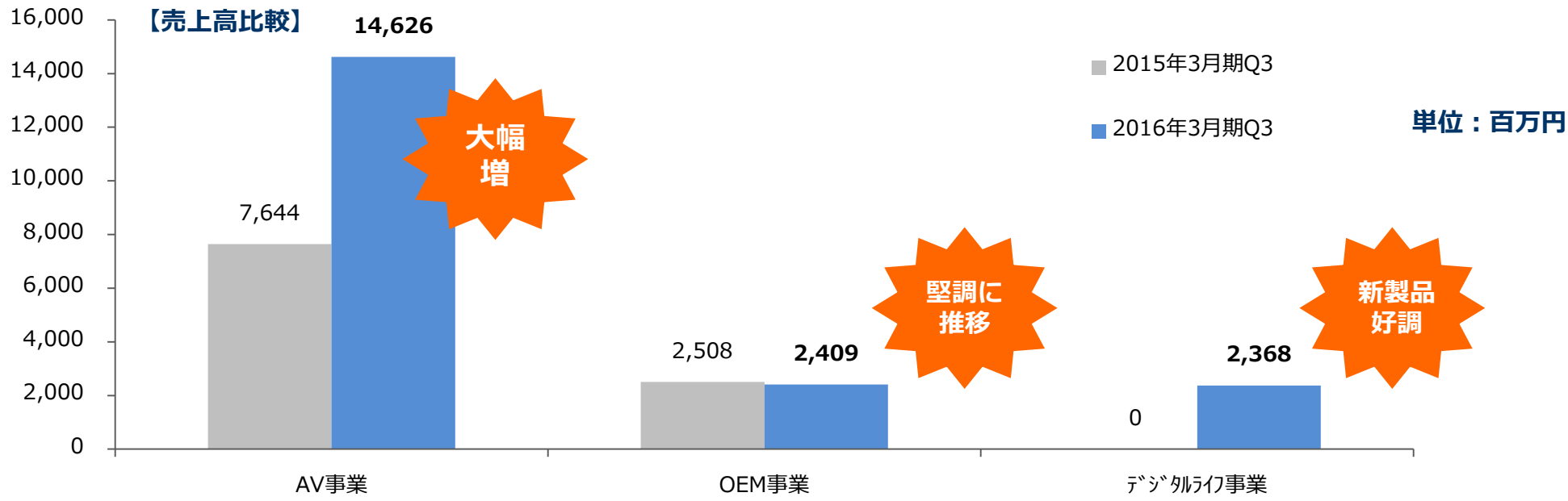
統合効果や原価低減等が寄与し黒字化を達成



単位：百万円

©2016 Onkyo Corporation All Rights Reserved

セグメント別　Q3売上高と主たる要因



■ **AV事業　14,626百万円（前年同期比+6,982百万）**

・パイオニアブランドＡＶ製品の売上の寄与等により大幅増

■ **OEM事業 2,409百万円（前年同期比▲99百万）**

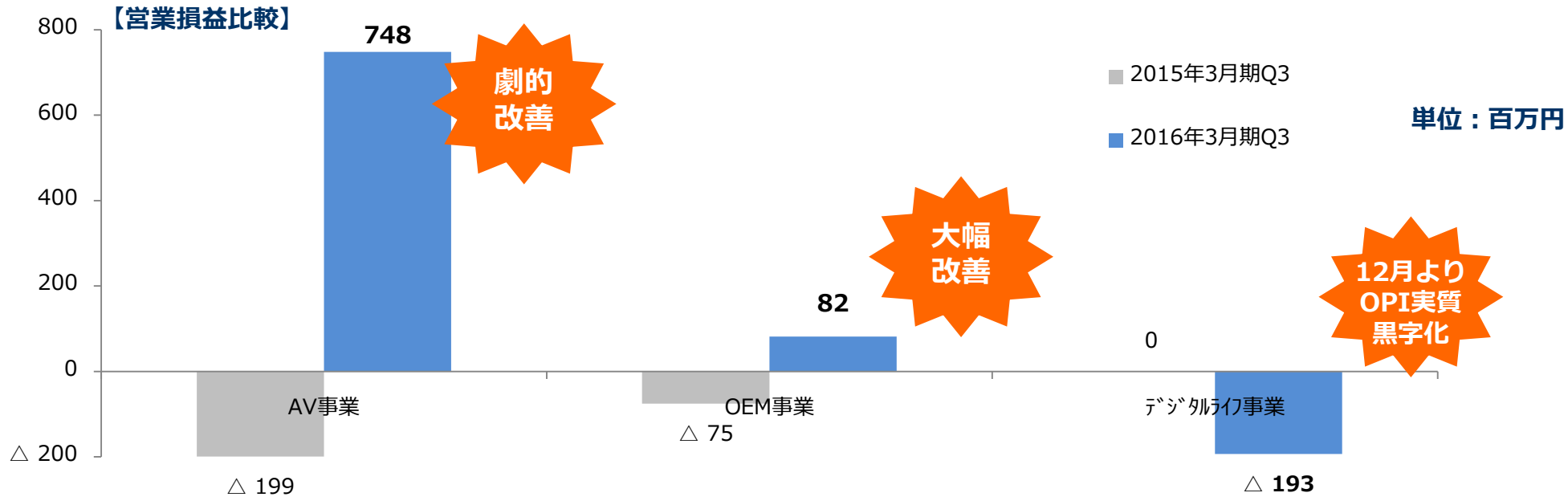
・車載用スピーカー含め、全体的に堅調に推移

■ **デジタルライフ事業 2,368百万円**

・堅調な電話機及びヘッドホンの販売に加え、DAP等の新製品効果により四半期ごとに右肩上がりの推移

©2016 Onkyo Corporation All Rights Reserved

セグメント別　Q3営業損益と主たる要因



■ AV事業　748百万円（前年同期比+947百万）

・一部のAV製品の生産統合による原価低減や、品質改善による製品補償費の削減等により劇的に損益改善

■ OEM事業 82百万円（前年同期比+157百万）

・中国国内での工場集約による生産性の改善に伴うコスト削減等により黒字化

■ デジタルライフ事業 △193百万円

・新製品の開発費や販売促進費などの先行投資により損失が発生したが、DAPやカスタムイヤホンの売上拡大と売上総利益率の向上等により、デジタルライフ事業を手掛けるオンキヨー＆パイオニアイノベーションズ（OPI）は12月単月より実質黒字化

©2016 Onkyo Corporation All Rights Reserved

2016年3月期第3四半期　事業トピックス

AV事業

- パイオニアホームAV事業との各機能統合を前倒しで実施。
  一部機器において生産拠点を当初計画より前倒しで
  集約し、生産効率化を実現

OEM事業

- 来期に向け、新素材を使用した
  音響製品の製品化に成功
- 業務用音響機器（PA機器）事業に参入

デジタルライフ事業

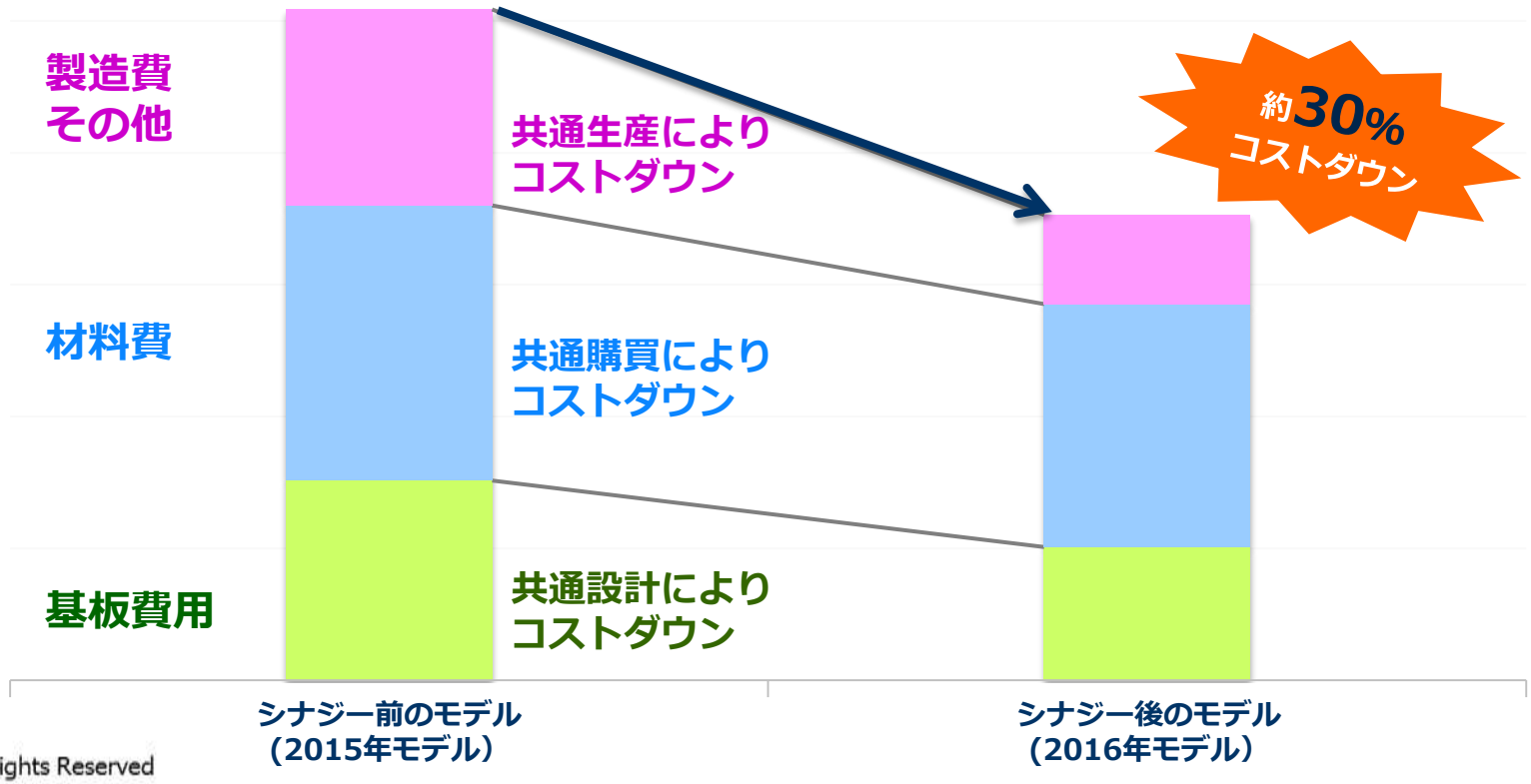
- 統合後協業第1弾製品となるDAPを、
  オンキヨー・パイオニア
  両ブランドから発売。市場で好評を博す
- ハイレゾ音源配信サービス好調。
  平成27年12月は過去最高の単月売上高を達成

©2016 Onkyo Corporation All Rights Reserved

更なる成長に向けた取り組みについて（AV事業）

- 現在販売している2015年モデルAV製品の多くが
  統合前に企画・設計された製品であるため、シナジー効果は限定的
- 今後販売する2016年モデルAV製品は統合シナジー効果を享受、
  一部機種においては**約30%**のコストダウンが見込まれる

AV製品　コストダウンの一例　（パイオニアブランドの2015年モデル（統合前）と、その同等製品の2016年モデル（統合後）との製品コスト比較）



©2016 Onkyo Corporation All Rights Reserved

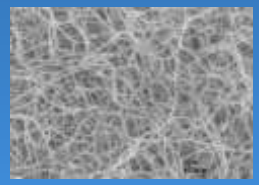
ONKYO

更なる成長に向けた取り組みについて（OEM事業）

世界初※1

バイオマス素材採用スピーカー

“セルロースナノファイバー” 振動板
CNF = Pure Cellulose Nano Fiber



CNF（イメージ）

- しなやかさと軽さを両立
  - 鉄の約５分の１の重さで、鉄の約５倍の強度
- 高域再生帯域を拡大 （２倍のヤング率）
- 地球環境保全に適したバイオマス素材を採用
- 当社ブランド製品や車載用スピーカー等へ展開予定

世界初※2

ハイレゾ対応ヘッドホンドライバー

“ マグネシウム モノコック ” 振動板
ハイレゾ対応

- アルミニウムよりも約４０％軽く強度、剛性に優れている
- 低歪
  内部損失（ Tanδ）が実用金属中最大
- ヘッドホンなどに最適化した一体成型を実現
- ハイレゾに対応する広帯域再生（40kHz以上）

©2016 Onkyo Corporation All Rights Reserved

※1　2015年11月時点当社調べ。　※2　2015年12月時点当社調べ

ONKYO

更なる成長に向けた取り組みについて（デジタルライフ事業）

拡大が見込まれるポータブルオーディオ市場において、シェア拡大を図るべく数多くの製品をラインアップ

パイオニアブランド　ラインアップ

オーバーヘッドタイプ

インナーイヤータイプ

ブルートゥースヘッドホン

ブルートゥーススピーカー

オンキヨーブランド　ラインアップ

オーバーヘッドタイプ

インナーイヤータイプ

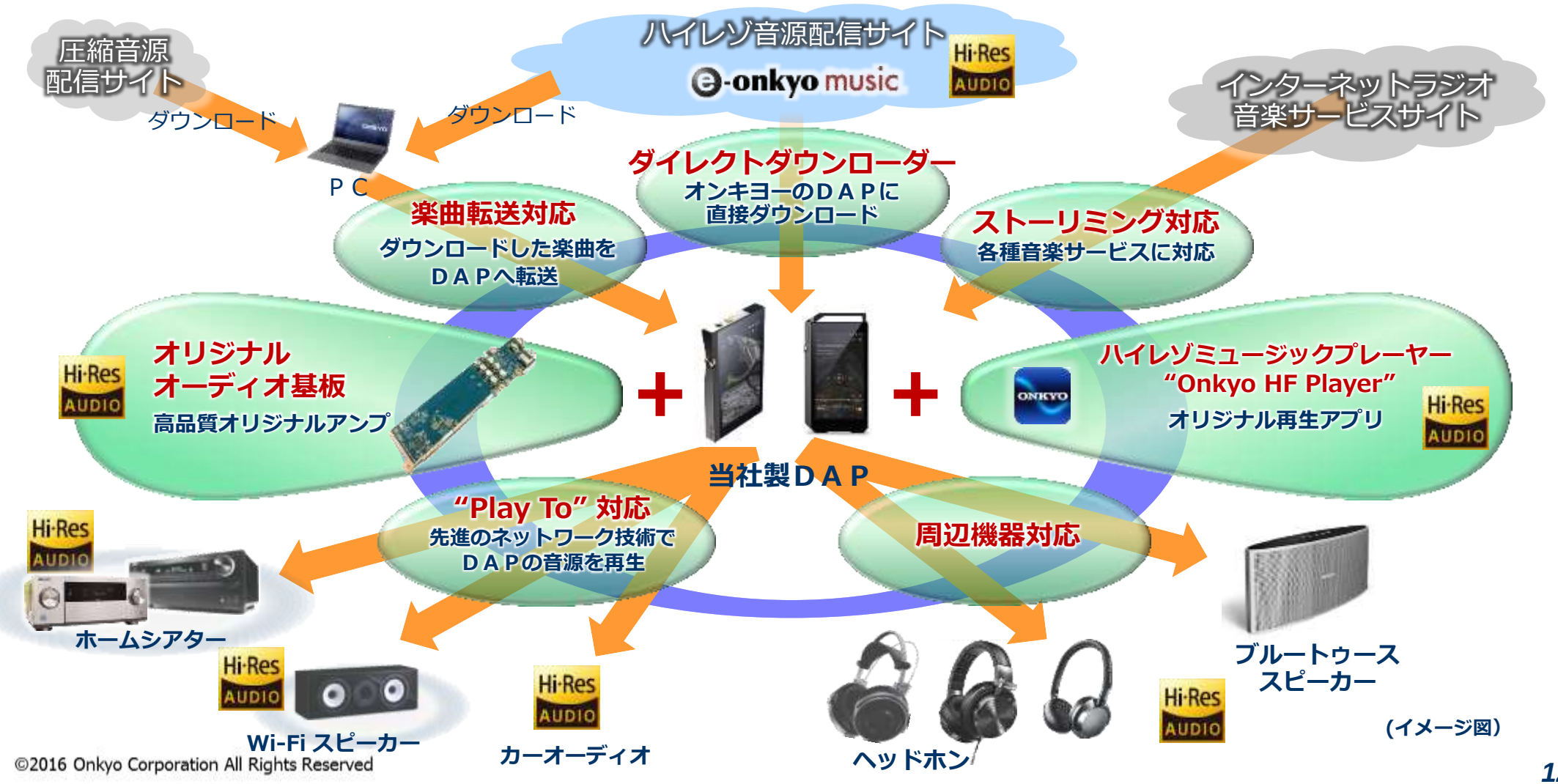
ブルートゥーススピーカー

©2016 Onkyo Corporation All Rights Reserved

ONKYO

更なる成長に向けた取り組みについて（デジタルライフ事業）

販売好調なDAPを中心としたエコシステムを構築



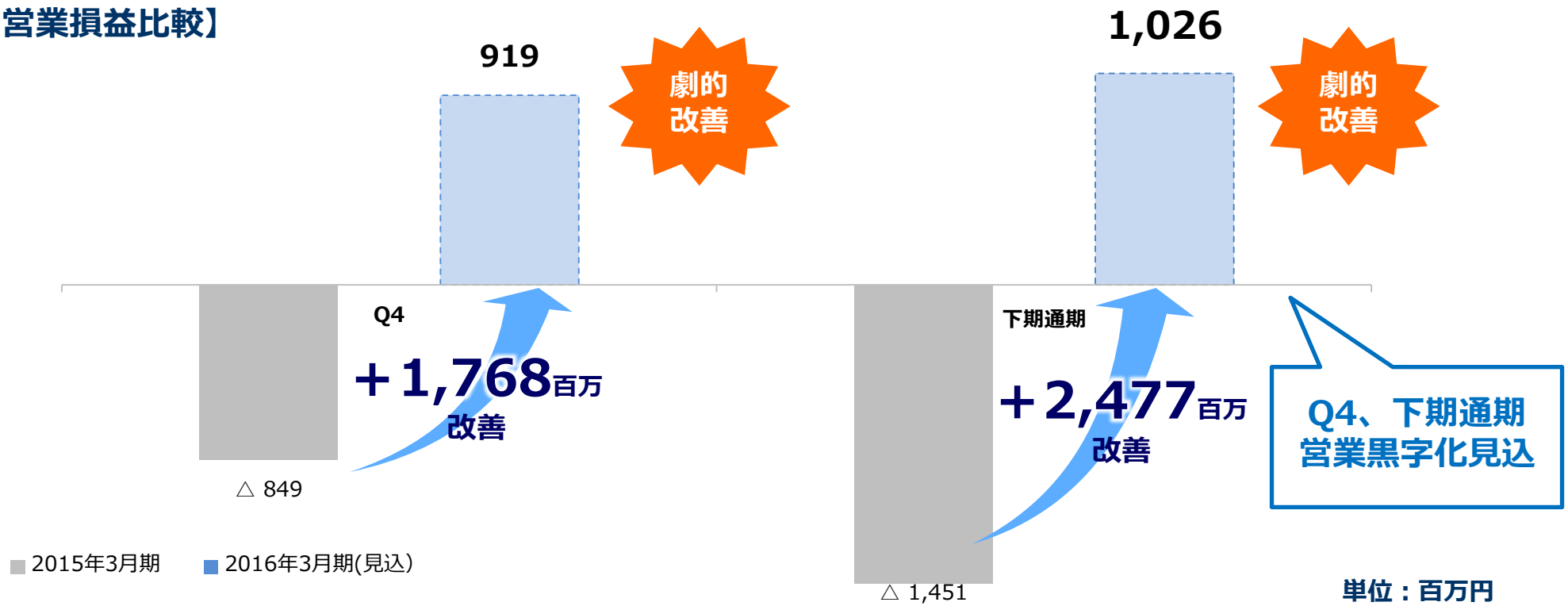
©2016 Onkyo Corporation All Rights Reserved

2016年3月期　第4四半期・下期業績見込みについて

既に効果が出始めた統合シナジー効果の更なる実現や
デジタルライフ事業の拡大、OEM事業の拡大を実行

Q4に加え、下期通期でも営業黒字化を見込む

【営業損益比較】



単位：百万円

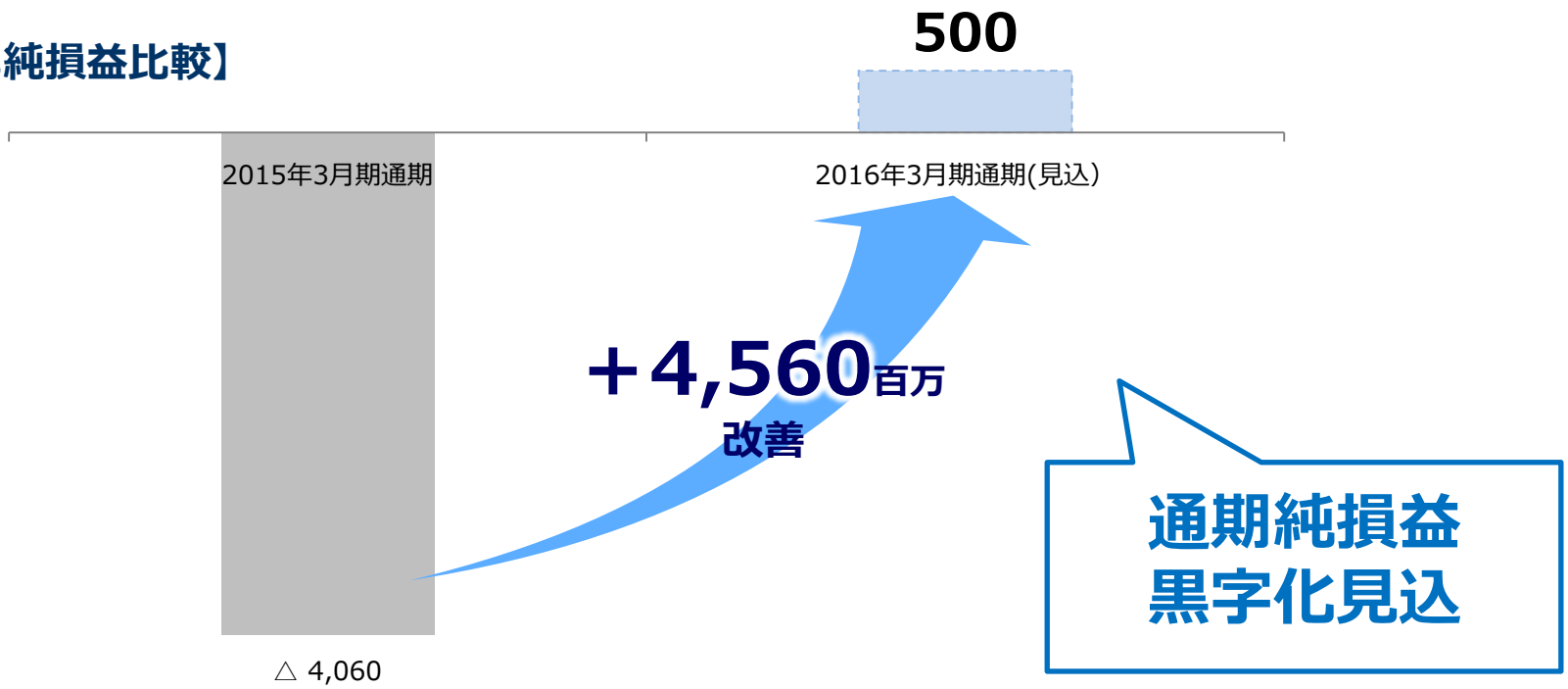
©2016 Onkyo Corporation All Rights Reserved

2016年3月期　通期業績見込みについて

2016年Q4において、一部の保有資産売却を予定

2016年3月期通期で純損益黒字化を見込む

【親会社株主に帰属する純損益比較】



単位：百万円

©2016 Onkyo Corporation All Rights Reserved

ONKYO®

本資料に記載されている業績や見込、将来に関する記述等は資料作成時点において入手可能な当社およびその関係会社の情報に基づいて予測し得る範囲内で当社が作成したものであります。これらの記述はリスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を保証いたしません。実際の業績は今後様々な要因により異なる結果となる可能性があります。本資料における第2四半期、第3四半期、第4四半期の業績値または見込値は、当該四半期累計期間値または通期業績見込値から前四半期累計期間値を差し引いて算出したものであるため、実際の第2四半期、第3四半期、第4四半期の値と誤差が生じている場合がありますが、その差額は百万円未満です。なお、本資料に関する全ての著作権その他の権利は当社に属します。